

ハスカップおよびカーランツのチャバネアオカメムシ(新寄主)

長沼町の中央農試果樹園のハスカップにおいて令和7年6月上旬及び7月中旬、カーランツにおいて7月中旬に、カメムシ類成虫及び幼虫を果実及び茎葉で確認し、いずれの果実も吸汁する様子が確認された。また、7月中旬には、カーランツの葉の陰に集団で隠れている様子も確認された。幼虫については室内でそれぞれの果実で飼育した結果、成虫が得られ、外部形態からチャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* Scott と同定した。ハスカップにおいては、果実がしわ状やしいなとなる果実が確認された。一方、カーランツにおいては、被害果がしわ状となる症状が確認された。7月中旬におけるハスカップの被害果率は約48%、カーランツの被害果率は約30%であり、多くの果実で被害が確認された。本種は令和5年にぶどうで発生が報告されており、令和7年には様々な果樹や作物で多発生が確認されている。

(中央農試)



上：ぶどう葉上のチャバネアオカメムシ

左下：ハスカップを加害するチャバネアオカメムシ

右下：カーランツを加害するチャバネアオカメムシ

(いずれも中央農試 佐々木原図)